

## メッセージアウトライン ヨハネ10：22～31「神の御手の中で」

「宮きよめの祭り」(22) シリヤの王アンティオコス・エピファネスによって荒らされた神殿のきよめと再奉獻を記念して、BC165年にユダ・マカバイオスによって制定された祭り。「時は冬であった」「ソロモンの廊」(23)これはエルサレム神殿の南側にあった回廊。この部分だけは壁があり、屋根があった。冷たい風をさえぎる格好の場所だった。

「ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。…もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください」(24) 彼らはイエスを取り囲んで逃がさないようにしながら、イエスに答えを迫ったのである。イエスは、「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです」(25)と彼らの側の問題を指摘された。そして続けて、「わたしが父の御名によって行なうわざが、わたしについて証言しています」とご自分がなされたいいろいろな奇蹟やいやしのわざをその証拠としてあげられた。こんなことができるの、まさに天地万物を支配しすべてのものに主権をもっておられるお方、すなわち神だけなのである。しかし、イエスに敵対するユダヤ人たちはそれを見てもイエスを神のもとから来られた方であること、メシヤ、救い主とは信じないのである。イエスはあなたがたが信じないのは、わたしの羊に属していないからだと言われた。(26) イエスの羊はイエスの声を聞き分けることができ、またイエスはご自分の羊たちをよく知っておられ、彼が呼べばその群れの羊たちはついて行くのである。(27)(参考：使徒13:48,18:9～10,エペソ1:4～5) 「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません」(28)「永遠のいのち」→罪の結果としての死、最後の敵である死に打ち勝ついのち、神と共に永遠に生きることのできるいのち。→ローマ6:23

この世のどのようなものも、決してイエスの手の中にある羊を奪い去ることはできない。イエスはすべてのもの上に主権を持たれる神であり、すべてのものに勝って強いお方なのである。悪霊も悪魔も王も将軍も負かすことはできない。→ローマ8:35～39, Iコリント10:13 「わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまあって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません」(29) イエスに属する羊とは、もともとは父なる神がイエスにお与えになったものであり、羊たちはイエスのみでなく、父なる神の御手の中でも守られているのである。それゆえ決して誰も奪い去ることはできない。本当にイエス・キリストを自分の罪の救い主と信じ、告白した者は、もはや滅びることはないのである。ここに私たちが心からの平安と喜びと確信を持って信仰生活を送ることのできる根拠がある。

「わたしと父とは一つです」(30)この言葉はイエスと父なる神とが、その意図と目的において全く一致していることの表現。イエスの羊に属していない者たちはいくらみことばを聞き、証拠としての奇蹟を示されても信じようとしない。かえってイエスを抹殺しようとする。(31) これが罪に支配された人間の本当の姿である。この罪の問題の解決は、罪のない神の御子イエスが自分のために十字架にかかるれて死んでくださったことを信じ受け入れるほかに道はない。(ヨハネ3:16)